



データの収集

Data Infrastructure Insights

NetApp
February 11, 2026

目次

データの収集	1
データ収集を始める	1
取得ユニットをインストールする	1
データコレクターの構成 - インフラストラクチャ	1
データコレクターを構成する - オペレーティングシステムとサービス	2
ダッシュボードを追加する	2
以上です	2
便利な定義	3
取得ユニットの要件	3
要件	3
追加の推奨事項	5
サイズについて	5
取得ユニットの設定	6
Linux取得ユニットの追加	6
Windows 取得ユニットの追加	8
取得ユニットのアンインストール	10
取得ユニットの再インストール	12
AUの詳細の表示	12
データ収集のためのエージェントの構成 (Windows/Linux)	13
エージェントのインストール	13
Telegraf パッケージのチェックサムの検証	21
APIアクセストークンの作成と使用	23
トラブルシューティング	24
データコレクターの構成	25
データコレクターの取得状況の判断	26
構成されたデータコレクターの管理	26
データコレクタのポーリングの制御	26
データ収集者の情報を編集する	27
データ収集装置のクローン作成	27
データコレクターに対する一括アクションの実行	28
失敗したデータ収集装置の調査	28

データの収集

データ収集を始める

Data Infrastructure Insightsにサインアップし、環境に初めてログインすると、データの収集と管理を開始するために、次の手順が案内されます。

データ コレクターは、ストレージ デバイス、ネットワーク スイッチ、仮想マシンなどのデータ ソースから情報を検出します。収集された情報は、分析、検証、監視、トラブルシューティングに使用されます。

Data Infrastructure Insights、次の 3 種類のデータ コレクターが利用可能です。

- インフラストラクチャ (ストレージデバイス、ネットワークスイッチ、コンピューティングインフラストラクチャ)
- オペレーティング システム (VMware や Windows など)
- サービス (Kafkaなど)

サポートされているベンダーと利用可能なモデルから最初のデータ コレクターを選択します。後でデータコレクターを簡単に追加できます。

取得ユニットをインストールする

インフラストラクチャ データ コレクターを選択した場合は、Data Infrastructure Insightsにデータを挿入するために Acquisition Unit が必要です。収集元のデータ センターのサーバーまたは VM に Acquisition Unit ソフトウェアをダウンロードしてインストールする必要があります。1 つの取得ユニットを複数のデータ コレクターに使用できます。

[Linux AU の説明]

- フォロー"[確認方法](#)"取得ユニットをインストールするには、次のメッセージが表示されます。取得ユニットソフトウェアがインストールされると、[続行] ボタンが表示され、次の手順に進むことができます。

[新しいAUが検出されました]

必要に応じて、後で追加の取得ユニットを設定できます。たとえば、異なる地域のデータ センターから情報を収集するために、異なる取得ユニットが必要になる場合があります。

データコレクターの構成 - インフラストラクチャ

インフラストラクチャ データ コレクターの場合は、表示されるデータ コレクター フィールドに入力するように求められます。

- データ コレクターに一意で意味のある名前を付けます。
- 必要に応じて、デバイスに接続するための資格情報 (ユーザー名とパスワード) を入力します。
- *Configuration* セクションと *Advanced Configuration* セクションのその他の必須フィールドに入力します。
- データ コレクターを保存するには、[コレクターの追加] をクリックします。

後で追加のデータ コレクターを構成できるようになります。

データコレクターを構成する - オペレーティングシステムとサービス

オペレーティング・システム：

オペレーティング システム データ コレクターの場合は、プラットフォーム (Linux、Windows) を選択して、Data Infrastructure Insights Agent をインストールします。サービスからデータを収集するには、少なくとも 1 つのエージェントが必要です。エージェントは、Data Infrastructure Insightsで使用するために、ホスト自体からもデータを収集します。このデータはウィジェットなどでは「ノード」データとして分類されます。

- エージェント ホストまたは VM でターミナルまたはコマンド ウィンドウを開き、表示されたコマンドを貼り付けてエージェントをインストールします。
- インストールが完了したら、「セットアップの完了」をクリックします。

サービス：

サービス データ コレクターの場合は、タイルをクリックすると、そのサービスの説明ページが開きます。

- プラットフォームとエージェント アクセス キーを選択します。
- そのプラットフォームにエージェントがインストールされていない場合は、手順に従ってエージェントをインストールしてください。
- *続行*をクリックすると、データ コレクターの説明ページが開きます。
- 指示に従ってデータ コレクターを構成します。
- 設定が完了したら、[セットアップの完了] をクリックします。

ダッシュボードを追加する

構成するために選択した初期データ コレクターのタイプ (ストレージ、スイッチなど) に応じて、1 つ以上の関連するダッシュボードがインポートされます。たとえば、ストレージ データ コレクターを構成した場合、ストレージ関連のダッシュボードのセットがインポートされ、そのうちの 1 つがData Infrastructure Insights ホーム ページとして設定されます。ダッシュボード > すべてのダッシュボードを表示 リストからホームページを変更できます。

後で追加のダッシュボードをインポートしたり、"[自分で作成する](#)"。

以上です

初期セットアッププロセスが完了すると、環境でデータの収集が開始されます。

初期セットアップ プロセスが中断された場合 (たとえば、ブラウザー ウィンドウを閉じた場合)、次の手順を手動で実行する必要があります。

- データコレクターを選択する
- プロンプトが表示されたらエージェントまたは取得ユニットをインストールします
- データコレクターを構成する

便利な定義

Data Infrastructure Insights のデータ コレクターまたは機能について説明するときは、次の定義が役立つ場合があります。

- コレクターのライフ サイクル: コレクターは、ライフ サイクルにおいて次のいずれかの状態に属します。
 - プレビュー: 限られた容量または限られた視聴者向けに提供されます。"プレビュー機能"データ コレクターは、プレビュー期間の後に GA になる予定です。プレビュー期間は対象者や機能によって異なります。
 - **GA**: エディションまたは機能セットに基づいて、すべての顧客に一般公開されている機能またはデータ コレクター。
 - 非推奨: 機能的に持続不可能になった、または持続不可能になると予想されるデータ コレクターに適用されます。廃止されたデータ コレクターは、多くの場合、機能が更新された新しいデータ コレクターに置き換えられます。
 - 削除済み: 削除され、利用できなくなったデータ コレクター。
- 取得ユニット: データ コレクターをホストするための専用コンピューター (通常は仮想マシン)。このコンピューターは通常、監視対象項目と同じデータセンター/VPC 内に配置されます。
- データ ソース: ハードウェアまたはソフトウェア スタックと通信するためのモジュール。これは、デバイスと通信するために AU コンピュータ上で実行される構成とコードで構成されています。

取得ユニットの要件

インフラストラクチャ データ コレクター (ストレージ、VM、ポート、EC2 など) から情報を取得するには、Acquisition Unit (AU) をインストールする必要があります。

Acquisition Unit をインストールする前に、テナントがオペレーティング システム、CPU、メモリ、およびディスク領域の要件を満たしていることを確認する必要があります。

要件

コンポーネント	Linux 要件	Windows の要件
---------	----------	-------------

オペレーティング システム	<p>次のいずれかのライセンス版を実行しているコンピューター：*</p> <p>AlmaLinux 9.5、10 * Centos (64ビット) : Stream 9 * Debian (64ビット) : 11から13 * OpenSUSE Leap 15.2から15.6、16 * Oracle Enterprise Linux (64ビット) : 8.10、9.2、9.4、9.6、10 * Red Hat (64ビット) : 8.10、9.2、9.4、9.6、10 * Rocky 9.2から9.6 * SUSE Linux Enterprise Server 15 SP4から15 SP7、16 * Ubuntu Server : 20.04、22.04、24.04 LTS</p> <p>* 上記プラットフォーム上のSELinux このコンピューターでは、他のアプリケーションレベルのソフトウェアを実行しないでください。専用サーバーをお勧めします。SELinuxで実行している場合は、取得ユニットシステムで次のコマンドを実行することをお勧めします：sudo semanage fcontext -a -t usr_t "/opt/netapp/cloudinsights(/.*)?" sudo restorecon -R /opt/netapp/cloudinsights</p>	<p>次のいずれかのライセンスバージョンを実行しているコンピューター：* Microsoft Windows 11 * Microsoft Windows Server 2016 * Microsoft Windows Server 2019 * Microsoft Windows Server 2022 * Microsoft Windows Server 2025 このコンピューターでは、他のアプリケーションレベルのソフトウェアを実行しないでください。専用サーバーをお勧めします。</p>
CPU	2つのCPUコア	同じ
メモリ	8GBのRAM	同じ
使用可能なディスク容量	<p>50 GB (100 GB を推奨) Linux の場合、ディスク領域は次のように割り当てる必要があります：</p> <p>/opt/netapp 10 GB (大規模環境の場合は 20 GB) /var/log/netapp 40 GB (大規模環境の場合は 80 GB) /tmp インストール時に少なくとも 1 GB 使用可能</p>	50 GB

ネットワーク	100 Mbps/1 Gbps イーサネット接続、静的 IP アドレス、および Acquisition Unit から *.cloudinsights.netapp.com または Data Infrastructure Insights テナント (つまり https://<tenant_id>.c01.cloudinsights.netapp.com) へのポート 80 または 443 (送信) 接続が必要です。取得ユニットと各データ収集装置間の要件については、" データコレクター "。組織でインターネットアクセスにプロキシの使用が必要な場合は、組織のプロキシの動作を理解し、Data Infrastructure Insights が機能するための特定の例外を探す必要がある場合があります。たとえば、組織ではデフォルトでアクセスをブロックし、例外的に特定の Web サイト/ドメインへのアクセスのみを許可していますか? もしそうなら、次のドメインを例外リストに追加する必要があります: *.cloudinsights.netapp.com 詳細については、 プロキシについてお読みください 。" ここ (Linux) " または " こちら (Windows) "。	同じ
権限	取得ユニット サーバーに対する Sudo 権限。 /tmp は exec 権限でマウントする必要があります。	取得ユニットサーバーの管理者権限
ウイルススキャン		インストール中は、すべてのウイルス スキャナーを完全に無効にする必要があります。インストール後、Acquisition Unit ソフトウェアで使用されるパスをウイルス スキャンから除外する必要があります。

追加の推奨事項

- 正確な監査とデータ レポートのために、ネットワーク タイム プロトコル (**NTP**) または 簡易ネットワーク タイム プロトコル (**SNTP**) を使用して取得ユニット マシンの時刻を同期することを強くお勧めします。

サイズについて

8 GB のメモリと 50 GB のディスク容量のみで Data Infrastructure Insights Acquisition Unit を開始できますが、より大規模な環境では、次の質問を自問する必要があります。

以下のことを期待していますか:

- この取得ユニットで 2,500 台を超える仮想マシンまたは 10 個の大規模 (2 ノード超) ONTAP クラスタ、Symmetrix、または HDS/HPE VSP/XP アレイを検出しますか?

- この取得ユニットに合計 75 台以上のデータ コレクターを展開しますか?

上記の各質問に「はい」と答えた場合は、AU に 8 GB のメモリと 50 GB のディスク容量を追加することをお勧めします。したがって、たとえば、両方の質問に「はい」と答えた場合は、150 GB 以上のディスク容量を備えた 24 GB のメモリ システムを展開する必要があります。Linux の場合、ログの場所に追加するディスク領域。

サイズに関する追加の質問については、NetAppサポートにお問い合わせください。

取得ユニットの設定

Data Infrastructure Insights は、ローカル サーバーにインストールされた 1 つ以上の Acquisition Units を使用してデバイス データを収集します。各取得ユニットは複数のデータ コレクターをホストでき、データ コレクターは分析のためにデバイス メトリックを Data Infrastructure Insights に送信します。

このトピックでは、取得単位を追加する方法と、環境でプロキシを使用する場合に必要な追加手順について説明します。



正確な監査とデータ レポートのために、ネットワーク タイム プロトコル (NTP) または 簡易ネットワーク タイム プロトコル (SNTP) を使用して取得ユニット マシンの時刻を同期することを強くお勧めします。

Data Infrastructure Insightsのセキュリティについて読む["ここをクリックしてください。"](#)。

Linux取得ユニットの追加

開始する前に

- システムでプロキシを使用している場合は、取得ユニットをインストールする前にプロキシ環境変数を設定する必要があります。詳細については、以下を参照してください。 [[プロキシ環境変数の設定](#)]。

Linux 取得ユニットのインストール手順

1. Data Infrastructure Insights環境に管理者またはアカウント所有者としてログインします。
2. *観測性 > コレクター > 取得ユニット > +取得ユニット*をクリックします

Install Acquisition Unit ダイアログが表示されます。Linuxを選択します。

Install Acquisition Unit

Cloud Insights collects device data via one or more Acquisition Units installed on local servers. Each Acquisition Unit can host multiple Data Collectors, which send device metrics to Cloud Insights for analysis.

What Operating System or Platform Are You Using?

Linux Versions Supported 

Production Best Practices 

Installation Instructions

[Need Help?](#)

1 Copy Installer Snippet

This snippet has a unique key valid for 24 hours for this Acquisition Unit only.

 Reveal Installer Snippet

2 Paste the snippet into a bash shell to run the installer.

3 Waiting for Acquisition Unit to connect...

1. 取得ユニットをホストするサーバーまたは VM が推奨されるシステム要件を満たしていることを確認します。
2. サーバーがサポートされているバージョンの Linux を実行していることを確認します。サポートされているバージョンの一覧については、[サポートされている OS バージョン (//)] をクリックします。
3. ダイアログ内のインストール コマンド スニペットを、取得ユニットをホストするサーバーまたは VM 上のターミナル ウィンドウにコピーします。
4. Bash シェルにコマンドを貼り付けて実行します。

終了後の操作

- **Observability > Collectors > Acquisition units** をクリックして、Acquisition Units のステータスを確認します。
- 取得ユニットのログには、`/var/log/netapp/cloudinsights/acq/acq.log` からアクセスできます。
- 取得ユニットを制御するには、次のスクリプトを使用します。
 - `cloudinsights-service.sh` (停止、開始、再起動、ステータスの確認)
- Acquisition Unit をアンインストールするには、次のスクリプトを使用します。
 - `cloudinsights-uninstall.sh`

プロキシ環境変数の設定

プロキシを使用する環境では、取得ユニットを追加する前にプロキシ環境変数を設定する必要があります。プロキシを構成する手順は、[取得ユニットの追加] ダイアログに記載されています。

1. プロキシサーバーはありますか? の + をクリックします。
2. コマンドをテキスト エディターにコピーし、必要に応じてプロキシ変数を設定します。

注意: プロキシのユーザー名とパスワード フィールドの特殊文字に関する制限に注意してください。ユーザー名フィールドでは「%」と「!」が許可されます。パスワード フィールドでは、「:」、「%」、「!」

が使用できます。

3. Bash シェルを使用して、ターミナルで編集したコマンドを実行します。
4. 取得ユニット ソフトウェアをインストールします。

プロキシ設定

取得ユニットは、双方向/相互認証を使用して、Data Infrastructure Insightsサーバーに接続します。クライアント証明書は、認証されるためにData Infrastructure Insightsサーバーに渡す必要があります。これを実現するには、データを復号化せずに https 要求をData Infrastructure Insightsサーバーに転送するようにプロキシを設定する必要があります。

これを行う最も簡単な方法は、プロキシ/ファイアウォールでワイルドカード構成を指定して、Data Infrastructure Insightsと通信することです。次に例を示します。

```
*.cloudinsights.netapp.com
```



ワイルドカードとしてアスタリスク (*) を使用するの是一般的ですが、プロキシ/ファイアウォールの構成では異なる形式が使用される場合があります。プロキシのドキュメントを参照して、環境内でのワイルドカードの指定が正しいことを確認してください。

プロキシ設定の詳細については、NetApp ["ナレッジベース"](#)。

プロキシ URL の表示

オンボーディング中にデータ コレクターを選択するときに [プロキシ設定] リンクをクリックするか、[ヘルプ > サポート] ページの [プロキシ設定] の下のリンクをクリックすると、プロキシ エンドポイント URL を表示できます。次のような表が表示されます。

Proxy Settings					×
Hostname	Port	Protocol	Methods	Endpoint URL Purpose	
qtrjkso.proxyserver.cloudinsights-dev.netapp.com	443	https	GET, POST, PATCH, PUT, DELETE	Tenant	
00b1100.1234.abcd.12bc.a1b2c3ef56a7.proxyserver.cloudinsights-dev.netapp.com	443	https	GET, POST, PATCH, PUT, DELETE	Acquisition Unit Ingestion	
aulogin.proxyserver.cloudinsights-dev.netapp.com	443	https	GET, POST, PATCH, PUT, DELETE	Acquisition Unit Authentication	
portal.proxy.cloud.netapp.com	443	https	GET, POST, PATCH, PUT, DELETE	Gateway	

Close

テナントに Workload Security がある場合は、設定されたエンドポイント URL もこのリストに表示されません。

Windows 取得ユニットの追加

Windows Acquisition Unit のインストール手順

1. 管理者権限を持つユーザーとして、Acquisition Unit サーバー/VM にログインします。

2. そのサーバーでブラウザ ウィンドウを開き、管理者またはアカウント所有者としてData Infrastructure Insights環境にログインします。
3. **Observability > Collectors > Acquisition Units > +Acquisition Unit** をクリックします。

Install Acquisition Unit ダイアログが表示されます。Windowsを選択します。

Install Acquisition Unit

Cloud Insights collects device data via one or more Acquisition Units installed on local servers. Each Acquisition Unit can host multiple Data Collectors, which send device metrics to Cloud Insights for analysis.

What Operating System or Platform Are You Using?

 Windows ▼

Windows Versions Supported ⓘ

Production Best Practices ⓘ

Installation Instructions

[Need Help?](#)

1

2

This access key is a unique key valid for 24 hours for this Acquisition Unit only.

3 Paste access key into installer when prompted.

4 Please ensure you have copied and pasted the access key into the installer.

1. 取得ユニットをホストするサーバーまたは VM が推奨されるシステム要件を満たしていることを確認します。
2. サーバーがサポートされているバージョンの Windows を実行していることを確認します。サポートされているバージョンの一覧については、[サポートされている OS バージョン (i)] をクリックします。
3. インストーラーのダウンロード (**Windows 64 ビット**) ボタンをクリックします。
4. アクセス キーをコピーします。インストール中にこれが必要になります。
5. 取得ユニット サーバー/VM で、ダウンロードしたインストーラーを実行します。
6. プロンプトが表示されたら、アクセス キーをインストール ウィザードに貼り付けます。
7. インストール中に、プロキシ サーバーの設定を入力する機会が表示されます。

終了後の操作

- 取得ユニットのステータスを確認するには、* > 観測性 > コレクター > 取得ユニット* をクリックします。
- Acquisition Unit のログには、<install dir>\ Cloud Insights\Acquisition Unit\log\acq.log からアクセスできます。
- 次のスクリプトを使用して、取得ユニットを停止、開始、再起動、またはステータスを確認します。

```
cloudinsights-service.sh
```

プロキシ設定

取得ユニットは、双方向/相互認証を使用して、Data Infrastructure Insightsサーバーに接続します。クライアント証明書は、認証されるためにData Infrastructure Insightsサーバーに渡す必要があります。これを実現するには、データを復号化せずに https 要求をData Infrastructure Insightsサーバーに転送するようにプロキシを設定する必要があります。

これを行う最も簡単な方法は、プロキシ/ファイアウォールでワイルドカード構成を指定して、Data Infrastructure Insightsと通信することです。次に例を示します。

```
*.cloudinsights.netapp.com
```



ワイルドカードとしてアスタリスク (*) を使用するの是一般的ですが、プロキシ/ファイアウォールの構成では異なる形式が使用される場合があります。プロキシのドキュメントを参照して、環境内でのワイルドカードの指定が正しいことを確認してください。

プロキシ設定の詳細については、NetApp["ナレッジベース"](#)。

プロキシ URL の表示

オンボーディング中にデータ コレクターを選択するときに [プロキシ設定] リンクをクリックするか、[ヘルプ > サポート] ページの [プロキシ設定] の下のリンクをクリックすると、プロキシ エンドポイント URL を表示できます。次のような表が表示されます。

Proxy Settings



If your organization requires proxy usage for internet access, you need to understand your organization's proxy behavior and seek certain exceptions for Cloud Insights to work. The simplest way is to add the following domains to the exception list:

Hostname	Port	Protocol	Methods	Endpoint URL Purpose
qtrjko.proxyserver.cloudinsights-dev.netapp.com	443	https	GET, POST, PATCH, PUT, DELETE	Tenant
00b1100.1234.abcd.12bc.a1b2c3ef56a7.proxyserver.cloudinsights-dev.netapp.com	443	https	GET, POST, PATCH, PUT, DELETE	Acquisition Unit Ingestion
aulogin.proxyserver.cloudinsights-dev.netapp.com	443	https	GET, POST, PATCH, PUT, DELETE	Acquisition Unit Authentication
portal.proxy.cloud.netapp.com	443	https	GET, POST, PATCH, PUT, DELETE	Gateway

Close

テナントに Workload Security がある場合は、設定されたエンドポイント URL もこのリストに表示されます。

取得ユニットのアンインストール

Acquisition Unit ソフトウェアをアンインストールするには、次の手順を実行します。

ウィンドウズ:

Windows 取得ユニットをアンインストールする場合:

1. 取得ユニット サーバー/VM で、コントロール パネルを開き、[プログラムのアンインストール] を選択します。削除するData Infrastructure Insights Acquisition Unit プログラムを選択します。
2. 「アンインストール」をクリックし、指示に従います。

リナックス:

Linux 取得ユニットをアンインストールする場合:

1. 取得ユニット サーバー/VM で、次のコマンドを実行します。

```
sudo cloudinsights-uninstall.sh -p
```

・ アンインストールのヘルプについては、次を実行してください:

```
sudo cloudinsights-uninstall.sh --help
```

Windows と Linux:

AU をアンインストールした後:

1. Data Infrastructure Insightsで、**Observability > Collectors** に移動し、***Acquisition Units** タブを選択します。
2. アンインストールする Acquisition Unit の右側にある [オプション] ボタンをクリックし、[削除] を選択します。取得ユニットを削除できるのは、その取得ユニットにデータ コレクターが割り当てられていない場合のみです。



データ コレクターが接続されている取得ユニット (AU) を削除することはできません。元の AU を削除する前に、AU のすべてのデータ コレクターを別の AU に移動します (コレクターを編集し、別の AU を選択します)。

横に星が付いている取得ユニットは、デバイスの解像度に使用されています。この AU を削除する前に、デバイス解決に使用する別の AU を選択する必要があります。別の AU にマウスを移動し、「3 つのドット」メニューを開いて「デバイスの解像度に使用」を選択します。

cbc-cloudinsights-au  

10.65.57.18

This Acquisition Unit is used for Device Resolution.

取得ユニットの再インストール

同じサーバー/VM に Acquisition Unit を再インストールするには、次の手順に従う必要があります。

開始する前に

取得ユニットを再インストールする前に、別のサーバー/VM に一時的な取得ユニットを構成する必要があります。

手順

1. 取得ユニット サーバー/VM にログインし、AU ソフトウェアをアンインストールします。
2. Data Infrastructure Insights環境にログインし、**Observability > Collectors** に移動します。
3. 各データ コレクターごとに、右側の [オプション] メニューをクリックし、[編集] を選択します。データ コレクターを一時的な取得ユニットに割り当て、[保存] をクリックします。

同じタイプの複数のデータ コレクターを選択し、[一括アクション] ボタンをクリックすることもできます。[編集] を選択し、データ コレクターを一時的な取得ユニットに割り当てます。

4. すべてのデータ コレクターが一時的な Acquisition Unit に移動されたら、**Observability > Collectors** に移動し、**Acquisition Units** タブを選択します。
5. 再インストールする取得ユニットの右側にある [オプション] ボタンをクリックし、[削除] を選択します。取得ユニットを削除できるのは、その取得ユニットにデータ コレクターが割り当てられていない場合のみです。
6. これで、Acquisition Unit ソフトウェアを元のサーバー/VM に再インストールできます。 **+Acquisition Unit** をクリックし、上記の手順に従って Acquisition Unit をインストールします。
7. 取得ユニットを再インストールしたら、データ コレクターを取得ユニットに再度割り当てます。

AUの詳細の表示

取得ユニット (AU) の詳細ページには、AU に関する有用な詳細情報と、トラブルシューティングに役立つ情報が提供されます。AU 詳細ページには次のセクションが含まれています。

- 次の内容を示す 概要 セクション:
 - 取得ユニットの*名前*と*IP*
 - AUの現在の接続*ステータス*
 - 最終報告 成功したデータコレクターのポーリング時間
 - AUマシンの*オペレーティングシステム*
 - AU の現在の メモ。このフィールドを使用して、AU に関するコメントを入力します。このフィールドには、最後に追加されたメモが表示されます。
- AU の データ コレクター の表。各データ コレクターについて次の内容が表示されます。
 - 名前 - このリンクをクリックすると、追加情報を含むデータ収集者の詳細ページにドリルダウンします。
 - ステータス - 成功またはエラー情報
 - タイプ - ベンダー/モデル
 - データ収集者の*IP*アドレス

- 現在の*影響*レベル
- *最終取得*時間 - データコレクターが最後に正常にポーリングされた時間

Acquisition Unit Summary

Name xp-linux	Connection Status OK - Need Help?	Operating System Linux	Note
IP 10.197.120.145	Last Reported 2 minutes ago		

Data Collectors (3) + Data Collector Bulk Actions Filter...

<input type="checkbox"/>	Name ↑	Status	Type	IP	Impact	Last Acquired
<input type="checkbox"/>	foo	! Inventory failed	NetApp Data ONTAP 7-Mode	foo	Low	Never
<input type="checkbox"/>	xp-cisco	All successful	Cisco MDS Fabric Switches	10.197.136.66		2 minutes ago
<input type="checkbox"/>	xpcdot26	All successful	NetApp ONTAP Data Management Software	10.197.136.26		8 minutes ago

各データ コレクターごとに、「3つのドット」メニューをクリックして、データ コレクターの複製、編集、ポーリング、または削除を行うことができます。このリストで複数のデータ コレクターを選択し、一括アクションを実行することもできます。

取得ユニットを再起動するには、ページの上にある [再起動] ボタンをクリックします。接続の問題が発生した場合に AU への 接続の復元 を試行するには、このボタンをドロップダウンします。

データ収集のためのエージェントの構成 (Windows/Linux)

Data Infrastructure Insightsサイトは"[テレグラフ](#)"統合データの収集エージェントとして。Telegraf は、メトリック、イベント、ログを収集およびレポートするために使用できるプラグイン駆動型のサーバー エージェントです。入力プラグインは、システム/OS に直接アクセスしたり、サードパーティの API を呼び出したり、構成されたストリーム (Kafka、statsD など) をリスンしたりして、エージェントに必要な情報を収集するために使用されます。出力プラグインは、収集されたメトリック、イベント、およびログをエージェントからData Infrastructure Insightsに送信するために使用されます。

Kubernetesへのインストールについては、"[NetApp Kubernetes 監視オペレーター](#)"ページ。



正確な監査とデータ レポートのために、ネットワーク タイム プロトコル (NTP) または 簡易ネットワーク タイム プロトコル (SNTP) を使用してエージェント マシンの時刻を同期することを強くお勧めします。



エージェントをインストールする前にインストールファイルを検証したい場合は、以下のセクションを参照してください。 [Telegraf パッケージのチェックサムの検証](#)。

エージェントのインストール

サービス データ コレクターをインストールしていて、まだエージェントを構成していない場合は、まず適切

なおオペレーティング システム用のエージェントをインストールするように求められます。このトピックでは、次のオペレーティング システムに Telegraf エージェントをインストールする手順について説明します。

- [Windows](#)
- [RHEL と CentOS](#)
- [Ubuntu と Debian](#)

エージェントをインストールするには、使用しているプラットフォームに関係なく、まず次の手順を実行する必要があります。

1. エージェントに使用するホストにログインします。
2. Data Infrastructure Insights環境にログインし、**Observability > Collectors** に移動します。
3. ***+データコレクター***をクリックし、インストールするデータコレクターを選択します。
4. ホストに適したプラットフォームを選択します (Windows、Linux)
5. 各プラットフォームの残りの手順に従います。



一度ホストにエージェントをインストールすると、そのホストに再度エージェントをインストールする必要はありません。



サーバー/VM にエージェントをインストールすると、Data Infrastructure Insights は、構成したデータ コレクターからの収集に加えて、そのシステムからメトリックを収集します。これらの指標は次のように収集されます"**「ノード」メトリック**"。



プロキシを使用している場合は、Telegraf エージェントをインストールする前に、プラットフォームのプロキシ手順をお読みください。

ログの場所

デフォルトでは、Telegraf ログ メッセージは stdout から次のログ ファイルにリダイレクトされます。

- RHEL/CentOS: /var/log/telegraf/telegraf.log
- Ubuntu/Debian: /var/log/telegraf/telegraf.log
- Windows: C:\Program Files\telegraf\telegraf.log

Windows

前提条件

- PowerShellがインストールされている必要があります
- プロキシを使用している場合は、「**Windows** のプロキシ サポートの構成」セクションの指示に従う必要があります。

Windows のプロキシサポートの構成



環境でプロキシを使用している場合は、インストールする前にこのセクションをお読みください。



以下の手順は、`http_proxy/https_proxy` 環境変数を設定するために必要なアクションの概要を示しています。一部のプロキシ環境では、ユーザーは `no_proxy environment` 変数も設定する必要があります。

プロキシの背後にあるシステムの場合は、Telegraf エージェントをインストールする前に、次の操作を実行して `https_proxy` および/または `http_proxy` 環境変数を設定します。

```
[System.Environment]:SetEnvironmentVariable("https_proxy",
"<proxy_server>:<proxy_port>", [System.EnvironmentVariableTarget]:Machine)
```

エージェントのインストール



Install Agent

Quickly setup an agent in your environment and immediately start monitoring data

Select existing API Access Token or create a new one

KEY1 (...Zqlk0c)

+ API Access Token

Installation Instructions

[Need Help?](#)

1

Copy Agent Installer Snippet

This snippet has a unique key and is valid for 24 hours. Already have an agent in your environment? [View Troubleshooting](#)

⊞ Reveal Agent Installer Snippet

2

Open a PowerShell window as administrator and paste the snippet

3

Complete Setup

Windows にエージェントをインストールする手順:

1. エージェント アクセス キーを選択します。
2. エージェントのインストール ダイアログからコマンド ブロックをコピーします。クリップボード アイコンをクリックすると、コマンドをクリップボードにすばやくコピーできます。
3. PowerShellウィンドウを開く
4. コマンドを PowerShell ウィンドウに貼り付けて Enter キーを押します。
5. このコマンドは適切なエージェント インストーラーをダウンロードしてインストールし、デフォルト構成を設定します。完了すると、エージェント サービスが再起動されます。コマンドには一意のキーがあり、24 時間有効です。
6. *完了*または*続行*をクリックします

エージェントをインストールした後、次のコマンドを使用してサービスを開始/停止できます。

```
Start-Service telegraf
Stop-Service telegraf
```

エージェントのアンインストール

Windows でエージェントをアンインストールするには、PowerShell ウィンドウで次の操作を行います。

1. Telegraf サービスを停止して削除します。

```
Stop-Service telegraf
sc.exe delete telegraf
```

2. トラストストアから証明書を削除します。

```
cd Cert:\CurrentUser\Root
//rm E5FB7B68C08B1CA902708584C274F8EFC7BE8ABC
rm 1A918038E8E127BB5C87A202DF173B97A05B4996
```

3. *C:\Program Files\telegraf* フォルダを削除して、バイナリ、ログ、および構成ファイルを削除します。
4. レジストリから *_SYSTEM\CurrentControlSet\Services\EventLog\Application\telegraf_* キーを削除します。

エージェントのアップグレード

Telegraf エージェントをアップグレードするには、次の手順を実行します。

1. Telegraf サービスを停止して削除します。

```
Stop-Service telegraf
sc.exe delete telegraf
```

2. レジストリから *_SYSTEM\CurrentControlSet\Services\EventLog\Application\telegraf_* キーを削除します。
3. *C:\Program Files\telegraf\telegraf.conf* を削除します。
4. *C:\Program Files\telegraf\telegraf.exe* を削除します。
5. ["新しいエージェントをインストールする"](#)。

RHEL と CentOS

前提条件

- 次のコマンドが利用可能である必要があります: curl、sudo、ping、sha256sum、openssl、および dmidecode
- プロキシを使用している場合は、**RHEL/CentOS のプロキシ サポートの構成**セクションの指示に従う必

必要があります。

RHEL/CentOS のプロキシサポートの設定



環境でプロキシを使用している場合は、インストールする前にこのセクションをお読みください。



以下の手順は、`http_proxy/https_proxy` 環境変数を設定するために必要なアクションの概要を示しています。一部のプロキシ環境では、ユーザーは `no_proxy environment` 変数も設定する必要があります。

プロキシの背後にあるシステムの場合は、Telegraf エージェントをインストールする前に、次の手順を実行します。

1. 現在のユーザーの `https_proxy` および/または `http_proxy` 環境変数を設定します。

```
export https_proxy=<proxy_server>:<proxy_port>
. /etc/default/telegraf_ を作成し、_https_proxy_ および/または
_http_proxy_ 変数の定義を挿入します。
```

```
https_proxy=<proxy_server>:<proxy_port>
```

エージェントのインストール



RHEL & CentOS

Install Agent

Quickly setup an agent in your environment and immediately start monitoring data

Select existing API Access Token or create a new one

default_ingestion_api_key1 (...xEKVyK)

+ API Access Token

Production Best Practices ?

Installation Instructions

[Need Help?](#)

- 1 For environments operating behind a proxy server, follow the instructions to [configure proxy support to install and run Telegraf](#).
- 2 [Copy Agent Installer Snippet](#)
This snippet has a unique key and is valid for 24 hours. Already have an agent in your environment? [View Troubleshooting](#)
[Reveal Agent Installer Snippet](#)
- 3 Open a terminal window and paste the snippet in a Bash shell (requires `curl`, `sudo`, `ping`, `sha256sum`, and `dmidecode`).
- 4 [Complete Setup](#)

RHEL/CentOS にエージェントをインストールする手順:

1. エージェント アクセス キーを選択します。
2. エージェントのインストール ダイアログからコマンド ブロックをコピーします。クリップボード アイコンをクリックすると、コマンドをクリップボードにすばやくコピーできます。
3. Bashウィンドウを開く
4. コマンドをBash ウィンドウに貼り付けて、Enter キーを押します。
5. このコマンドは適切なエージェント インストーラーをダウンロードしてインストールし、デフォルト構成を設定します。完了すると、エージェント サービスが再起動されます。コマンドには一意のキーがあり、24 時間有効です。
6. *完了*または*続行*をクリックします

エージェントをインストールした後、次のコマンドを使用してサービスを開始/停止できます。

オペレーティング システムで systemd を使用している場合 (CentOS 7+ および RHEL 7+):

```
sudo systemctl start telegraf
sudo systemctl stop telegraf
```

オペレーティング システムで systemd を使用していない (CentOS 7+ および RHEL 7+) 場合:

```
sudo service telegraf start
sudo service telegraf stop
```

エージェントのアンインストール

RHEL/CentOS 上のエージェントをアンインストールするには、Bash ターミナルで次の手順を実行します。

1. Telegraf サービスを停止します。

```
systemctl stop telegraf (If your operating system is using systemd
(CentOS 7+ and RHEL 7+)
/etc/init.d/telegraf stop (for systems without systemd support)
```

2. Telegraf エージェントを削除します。

```
yum remove telegraf
. 残っている可能性のある構成ファイルやログ ファイルをすべて削除します。
```

```
rm -rf /etc/telegraf*
rm -rf /var/log/telegraf*
```

エージェントのアップグレード

Telegraf エージェントをアップグレードするには、次の手順を実行します。

1. Telegraf サービスを停止します。

```
systemctl stop telegraf (If your operating system is using systemd
(CentOS 7+ and RHEL 7+)
/etc/init.d/telegraf stop (for systems without systemd support)
```

2. 以前の Telegraf エージェントを削除します。

```
yum remove telegraf
. xref:{relative_path}#rhel-and-centos["新しいエージェントをインストールする"]
。
```

UbuntuとDebian

前提条件

- 次のコマンドが利用可能である必要があります: curl、sudo、ping、sha256sum、openssl、および dmidecode
- プロキシを使用している場合は、**Ubuntu/Debian** のプロキシ サポートの構成 セクションの指示に従う必要があります。

Ubuntu/Debian のプロキシサポートの設定



環境でプロキシを使用している場合は、インストールする前にこのセクションをお読みください。



以下の手順は、*http_proxy/https_proxy* 環境変数を設定するために必要なアクションの概要を示しています。一部のプロキシ環境では、ユーザーは *no_proxy environment* 変数も設定する必要があります。

プロキシの背後にあるシステムの場合は、Telegraf エージェントをインストールする前に、次の手順を実行します。

1. 現在のユーザーの *https_proxy* および/または *http_proxy* 環境変数を設定します。

```
export https_proxy=<proxy_server>:<proxy_port>
. /etc/default/telegraf を作成し、_https_proxy_ および/または _http_proxy_
変数の定義を挿入します。
```

```
https_proxy=<proxy_server>:<proxy_port>
```



Install Agent

Quickly setup an agent in your environment and immediately start monitoring data

Select existing API Access Token or create a new one

default_ingestion_api_key1 (...xEKVyK)

+ API Access Token

Production Best Practices ?

Installation Instructions

[Need Help?](#)

1 For environments operating behind a proxy server, follow the instructions to [configure proxy support to install and run Telegraf](#).

2 [Copy Agent Installer Snippet](#)

This snippet has a unique key and is valid for 24 hours. Already have an agent in your environment? [View Troubleshooting](#)

Reveal Agent Installer Snippet

3 Open a terminal window and paste the snippet in a Bash shell (requires curl, sudo, ping, sha256sum, and dmidcode).

4 [Complete Setup](#)

Debian または **Ubuntu** にエージェントをインストールする手順:

1. エージェント アクセス キーを選択します。
2. エージェントのインストール ダイアログからコマンド ブロックをコピーします。クリップボード アイコンをクリックすると、コマンドをクリップボードにすばやくコピーできます。
3. Bashウィンドウを開く
4. コマンドをBash ウィンドウに貼り付けて、Enter キーを押します。
5. このコマンドは適切なエージェント インストーラーをダウンロードしてインストールし、デフォルト構成を設定します。完了すると、エージェント サービスが再起動されます。コマンドには一意のキーがあり、24 時間有効です。
6. *完了*または*続行*をクリックします

エージェントをインストールした後、次のコマンドを使用してサービスを開始/停止できます。

オペレーティング システムで systemd を使用している場合:

```
sudo systemctl start telegraf
sudo systemctl stop telegraf
```

オペレーティング システムで systemd を使用していない場合は、次の操作を行います。

```
sudo service telegraf start
sudo service telegraf stop
```

エージェントのアンインストール

Ubuntu/Debian でエージェントをアンインストールするには、Bash ターミナルで次のコマンドを実行します。

1. Telegraf サービスを停止します。

```
systemctl stop telegraf (If your operating system is using systemd)
/etc/init.d/telegraf stop (for systems without systemd support)
```

2. Telegraf エージェントを削除します。

```
dpkg -r telegraf
. 残っている可能性のある構成ファイルやログ ファイルをすべて削除します。
```

```
rm -rf /etc/telegraf*
rm -rf /var/log/telegraf*
```

エージェントのアップグレード

Telegraf エージェントをアップグレードするには、次の手順を実行します。

1. Telegraf サービスを停止します。

```
systemctl stop telegraf (If your operating system is using systemd)
/etc/init.d/telegraf stop (for systems without systemd support)
```

2. 以前の Telegraf エージェントを削除します。

```
dpkg -r telegraf
. xref:{relative_path}#ubuntu-and-debian["
新しいエージェントをインストールする"] 。
```

Telegraf パッケージのチェックサムの検証

Data Infrastructure Insights エージェント インストーラーは整合性チェックを実行しますが、ダウンロードした Telegraf バイナリをインストールする前に独自の検証を実行することを望むユーザーもいます。これは、

インストーラーをダウンロードし、ダウンロードしたパッケージのチェックサムを生成し、そのチェックサムをインストール手順に示されている値と比較することで実行できます。

インストールせずにインストーラーパッケージをダウンロードする

ダウンロードのみの操作 (デフォルトのダウンロードとインストールではなく) を実行するには、ユーザーは UI から取得したエージェント インストール コマンドを編集し、「インストール」オプションを削除します。

次の手順を実行します。

1. 指示に従ってエージェント インストーラー スニペットをコピーします。
2. スニペットをコマンド ウィンドウに貼り付ける代わりに、テキスト エディターに貼り付けます。
3. コマンドの末尾の「--install」 (Linux) または「-install」 (Windows) を削除します。
4. テキスト エディターからコマンド全体をコピーします。
5. 次に、それをコマンド ウィンドウ (作業ディレクトリ内) に貼り付けて実行します。

Windows 以外 (これらの例は Kubernetes 用です。実際のスクリプト名は異なる場合があります):

- ダウンロードしてインストールする (デフォルト) :

```
installerName=cloudinsights-ubuntu_debian.sh ... && ./$installerName
--download --verify && sudo -E -H ./$installerName --install
* ダウンロード専用:
```

```
installerName=cloudinsights-ubuntu_debian.sh ... && ./$installerName
--download --verify
```

Windows :

- ダウンロードしてインストールする (デフォルト) :

```
!$(($installerName=".cloudinsights-windows.ps1") ... -and $(if(((Get-
FileHash $installerName).Hash).ToLower() -eq "INSTALLER_CHECKSUM ") {
&$installerName -download -verify -install } else { Write-Host "Install
script checksum does not match"})"
* ダウンロード専用:
```

```
!$(($installerName=".cloudinsights-windows.ps1") ... -and $(if(((Get-
FileHash $installerName).Hash).ToLower() -eq "INSTALLER_CHECKSUM ") {
&$installerName -download -verify } else { Write-Host "Install script
checksum does not match"})"
```

ダウンロード専用コマンドは、必要なすべての成果物をData Infrastructure Insightsから作業ディレクトリにダウンロードします。アーティファクトには、以下のものが含まれますが、これらに限定されるわけではありません。

- インストールスクリプト
- 環境ファイル
- Telegrafバイナリ
- Telegrafバイナリの署名
- バイナリ署名を検証するための公開証明書

DII からダウンロードしてコピーされたインストール スニペットはインストール スクリプトのチェックサムを自動的に計算し、インストール スクリプトによって telegraf バイナリの署名が検証されます。

チェックサム値を検証する

チェックサム値を生成するには、適切なプラットフォームに応じて次のコマンドを実行します。

- RHEL/Ubuntu:

```
sha256sum <package_name>  
* Windows :
```

```
Get-FileHash telegraf.zip -Algorithm SHA256 | Format-List
```

ダウンロードしたパッケージをインストールする

すべてのアーティファクトが適切に検証されたら、次のコマンドを実行してエージェントのインストールを開始できます。

Windows以外:

```
sudo -E -H ./<installation_script_name> --install  
Windows :
```

```
.\cloudinsights-windows.ps1 -install
```

APIアクセストークンの作成と使用

Telegraf データ取り込み用の API アクセストークンを作成するには、次のいずれかを実行してください。

データコレクターのインストールページから作成する

1. 使用するプラットフォーム (Windows、Linux) の Data Collector インストール ページに移動します。
2. + API アクセス トークン ボタンを使用してトークンを作成します。
3. 名前を入力して「保存」をクリックします。
4. ドロップダウンでトークン名が選択され、コレクターのインストール時に使用されます。

APIアクセストークンを手動で作成する

1. [管理] > [API アクセス] に移動します。
2. + API アクセス トークンをクリックします。
3. 名前と、オプションで説明を入力します。
4. 「このトークンはどのタイプの API を呼び出すために使用されますか?」の下で、「データ取り込み」のみを選択し、「取得ユニット」の選択を解除します。
5. 「権限」の下で「読み取り/書き込み」を選択します。
6. 「Kubernetes のトークンを自動的にローテーションする」の選択を解除します。

新しく作成した API アクセス トークンを使用するには、インストーラー ページの「既存の API アクセス トークンを選択するか、新しいトークンを作成する」ドロップダウンから選択します。次のプロパティを持つトークンのみが使用できることに注意してください。

- APIタイプ: 「データ取り込み」のみ
- 権限: 読み取り/書き込み
- Kubernetes 自動ローテーション: オフ

トラブルシューティング

エージェントの設定中に問題が発生した場合に試すことができるいくつかのこと:

問題:	これを試してください:
新しいプラグインを設定して Telegraf を再起動した後、Telegraf が起動に失敗します。ログには、次のようなエラーが記録されています: "[telegraf] エージェント実行エラー: 設定ファイル /etc/telegraf/telegraf.d/cloudinsights-default.conf の読み込みエラー: プラグイン出力.http: 行 <行番号>: 設定でフィールド ["use_system_proxy"] が指定されましたが、使用されていません"	インストールされている Telegraf のバージョンが古くなっています。このページの手順に従って、適切なプラットフォームの*エージェントをアップグレード*してください。
古いインストールでインストーラスクリプトを実行したところ、エージェントがデータを送信しなくなりました	Telegraf エージェントをアンインストールしてから、インストール スクリプトを再実行します。適切なプラットフォームについては、このページの エージェントのアップグレード の手順に従ってください。

問題：	これを試してください：
Data Infrastructure Insightsを使用してエージェントをすでにインストールしました	ホスト/VM にエージェントがすでにインストールされている場合は、エージェントを再度インストールする必要はありません。この場合は、エージェントのインストール画面で適切なプラットフォームとキーを選択し、「続行」または「完了」をクリックするだけです。
エージェントはすでにインストールされていますが、Data Infrastructure Insightsインストーラーを使用していません	以前のエージェントを削除し、Data Infrastructure Insights Agent のインストールを実行して、適切なデフォルト構成ファイル設定を確認します。完了したら、[続行] または [完了] をクリックします。

追加情報は以下からご覧いただけます。["サポート"](#)ページまたは["データコレクターサポートマトリックス"](#)。

データコレクターの構成

データセンター内のデバイスからデータを収集するには、Data Infrastructure Insights環境でデータ コレクターを構成します。

開始する前に

- データの収集を開始する前に、取得ユニットを構成する必要があります。
- データを収集するデバイスの資格情報が必要です。
- データを収集するすべてのデバイスには、デバイスのネットワーク アドレス、アカウント情報、およびパスワードが必要です。

手順

1. Data Infrastructure Insightsメニューから、*オブザーバビリティ > コレクター*をクリックします。

システムは、利用可能なデータ コレクターをベンダー別に表示します。

2. + コレクター をクリックし、構成するデータ コレクターを選択します。

ダイアログ ボックスでは、データ コレクターを構成し、取得ユニットを追加できます。

3. データ コレクターの名前を入力します。
4. 追加の構成フィールドを追加するには、「詳細構成」をクリックします。(すべてのデータ コレクターに高度な構成が必要なわけではありません。)
5. 構成のテスト をクリックして、データ コレクターが正しく構成されていることを確認します。
6. コレクターの追加 をクリックして構成を保存し、データ コレクターをData Infrastructure Insightsテナントに追加します。

サービスからのデータがダッシュボードに表示されるか、クエリに使用できるようになるまでには、最大 2 回のポーリング期間かかる場合があります。

- 1回目の在庫調査: 即時
- ベースラインを確立するための最初のパフォーマンスデータポーリング：インベントリポーリングの直後

- 2回目のパフォーマンスアンケート: 1回目のパフォーマンスアンケートの完了後15秒以内

ポーリングは、構成されたインベントリおよびパフォーマンス ポーリング間隔に従って続行されます。

データコレクターの取得状況の判断

データ コレクターはData Infrastructure Insightsの主な情報源であるため、データ コレクターが実行状態にあることを確認することが不可欠です。

データ コレクターのステータスは、アセット ページの右上隅に「N 分前に取得」というメッセージとして表示されます。ここで、N はアセットのデータ コレクターの最新の取得時刻を示します。取得日時も表示されます。

メッセージをクリックすると、データ コレクターの名前、ステータス、および最後に成功した取得時刻を含むテーブルが表示されます。管理者としてサインインしている場合は、テーブル内のデータ コレクター名のリンクをクリックすると、そのデータ コレクターの詳細ページに移動します。

構成されたデータコレクターの管理

「インストールされたデータ コレクター」 ページでは、Data Infrastructure Insights用に構成されたデータ コレクターにアクセスできます。このページを使用して、既存のデータ コレクターを変更できます。

手順

1. Data Infrastructure Insightsサイトメニューで、*オブザーバビリティ>コレクター*をクリックします。

利用可能なデータ コレクター画面が表示されます。

2. *インストールされたデータコレクター*をクリックします

インストールされているすべてのデータ コレクターのリストが表示されます。リストには、コレクターの名前、ステータス、コレクターがアクセスしている IP アドレス、デバイスから最後にデータが取得された日時が表示されます。この画面で実行できるアクションは次のとおりです。

- ポーリングを制御する
- データコレクターの資格情報を変更する
- クローンデータコレクター

データコレクタのポーリングの制御

データ コレクターに変更を加えた後、変更内容を確認するためにすぐにポーリングを実行したい場合や、問題の解決に取り組んでいる間、データ コレクターでのデータ収集を 1 日、3 日、または 5 日間延期したい場合があります。

手順

1. Data Infrastructure Insightsサイトメニューで、*オブザーバビリティ>コレクター*をクリックします。
2. *インストールされたデータコレクター*をクリックします

3. 変更したいデータコレクターの左側のチェックボックスを選択します
4. *一括アクション*をクリックし、実行する投票アクションを選択します。

複数のデータ コレクターに対して同時に一括アクションを実行できます。データ コレクターを選択し、[一括アクション]メニューから実行するアクションを選択します。

データ収集者の情報を編集する

既存のデータ コレクターのセットアップ情報を編集できます。

単一のデータコレクターを編集するには:

1. [Data Infrastructure Insights]メニューで、[可観測性] > [コレクター] をクリックして、インストールされているデータ コレクターのリストを開きます。
2. 変更するデータ コレクターの右側にあるオプション メニューで、[編集] をクリックします。

コレクター編集ダイアログが開きます。

3. 変更を入力し、「構成のテスト」をクリックして新しい構成をテストするか、「保存」をクリックして構成を保存します。

複数のデータ コレクターを編集することもできます。

1. 変更する各データ コレクターの左側にあるチェック ボックスをオンにします。
2. 一括操作 ボタンをクリックし、編集 を選択して、データ コレクターの編集ダイアログを開きます。
3. 上記のようにフィールドを変更します。



選択したデータ コレクターは同じベンダーとモデルであり、同じ取得ユニット上に存在している必要があります。

複数のデータ コレクターを編集する場合、データ コレクター名フィールドに「混合」と表示され、編集できません。ユーザー名やパスワードなどの他のフィールドには「混合」と表示され、編集できます。選択したデータ コレクター間で同じ値を共有するフィールドには現在の値が表示され、編集できます。

複数のデータ コレクターを編集する場合、[テスト構成] ボタンは使用できません。

データ収集装置のクローン作成

クローン機能を使用すると、別のデータ ソースと同じ資格情報と属性を持つデータ ソースをすばやく追加できます。クローン作成により、同じデバイス タイプの複数のインスタンスを簡単に構成できます。

手順

1. Data Infrastructure Insightsサイト メニューで、可観測性 > コレクター をクリックします。
2. *インストールされたデータコレクター*をクリックします。
3. コピーするデータ コレクターの左側にあるチェック ボックスをクリックします。
4. 選択したデータ コレクターの右側にあるオプション メニューで、[複製] をクリックします。

クローン データ コレクター ダイアログが表示されます。

5. 必須フィールドに新しい情報を入力します。
6. *保存*をクリックします。

終了後の操作

クローン操作では、他のすべての属性と設定がコピーされ、新しいデータ コレクターが作成されます。

データコレクターに対する一括アクションの実行

複数のデータ コレクターの一部の情報を同時に編集できます。この機能を使用すると、複数のデータ コレクターでポーリングを開始したり、ポーリングを延期したり、ポーリングを再開したりできます。さらに、複数のデータ コレクターを削除することもできます。

手順

1. Data Infrastructure Insightsサイトメニューで、*オブザーバビリティ>コレクター*をクリックします。
2. *インストールされたデータコレクター*をクリックします
3. 変更するデータ コレクターの左側にあるチェック ボックスをクリックします。
4. 右側のオプション メニューで、実行するオプションをクリックします。

終了後の操作

選択した操作はデータ コレクターに対して実行されます。データ コレクターを削除することを選択した場合、アクションの確認を求めるとダイアログが表示されます。

失敗したデータ収集装置の調査

データ コレクターに失敗メッセージがあり、影響度が高または中程度の場合、リンクされた情報を含むデータ コレクターの概要ページを使用してこの問題を調査する必要があります。

データ コレクターの障害の原因を特定するには、次の手順に従います。データ コレクターの障害メッセージは、管理者 メニューと インストールされたデータ コレクター ページに表示されます。

手順

1. 管理者 > データ コレクター > インストールされたデータ コレクター をクリックします。
2. 障害が発生したデータ コレクターのリンクされた名前をクリックして、[概要] ページを開きます。
3. [概要] ページで、[コメント] 領域をチェックして、この障害を調査している可能性のある別のエンジニアが残したメモを読んでください。
4. パフォーマンス メッセージがあればメモします。
5. イベント タイムライン グラフのセグメントの上にマウス ポインターを移動すると、追加情報が表示されます。
6. イベント タイムラインの下に表示されるデバイスのエラー メッセージを選択し、メッセージの右側に表示されるエラーの詳細アイコンをクリックします。

エラーの詳細には、エラー メッセージのテキスト、最も可能性の高い原因、使用中の情報、問題を修正す

るために試すことができる内容の提案が含まれます。

7. 「このデータ コレクターによって報告されたデバイス」領域では、リストをフィルターして関心のあるデバイスのみを表示できます。また、デバイスのリンクされた名前をクリックして、そのデバイスの資産ページを表示できます。
8. データ コレクターの概要ページに戻ったら、ページの下部にある [最近の変更を表示] 領域をチェックして、最近の変更が問題の原因になっているかどうかを確認します。

著作権に関する情報

Copyright © 2026 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および/または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。